

【広尾町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。GIGA スクール構想にて整備された1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて、児童生徒が急激に変化し予測困難な時代に持続可能社会の創り手となることができるよう、その資質と能力を育成する学びを目指す。

1. GIGA 第1期の総括

(1) 環境整備と活用

本町では、令和2年度に1人1台端末及び無線 LAN 環境を整備した。令和3年4月より教職員による研究活動を主として、同年8月より授業・持ち帰り学習での活用を本格化した。

現状、端末を使った調べ学習、グループ学習や情報共有が日常的に行われている。児童生徒の理解度に合わせて取り組むことができるデジタルドリルを利用し、個別最適な学びを推進している。

学習集団アセスメント(Q-Uテスト)を端末を使用して行うことで、迅速な結果集計と学級経営への即時反映を可能とした。

(2) 課題と改善策

①端末の経年劣化による動作不良、慢性的容量不足による動作遅延の多発

端末更新時に OS を変更し、動作不良・遅延の解消を図る。

②教職員の人事異動時の負担

管内市町村にて少数派となる OS を採用していたことによる、人事異動に伴う教職員の負担増を解消するために、採用市町村の多い OS に変更する。

① 教職員の ICT 活用スキルの個人差

町教育研究所主催研修や各校で実施している校内研修により、スキルの個人差は解消されつつある。今後も随時の情報提供や OS 変更時の研修等により個人差の解消を図る。

3. 1人1台端末の利活用方針

上記「1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿」「2. GIGA 第1期の総括」を踏まえ、「教育 DX に係る当面の KPI」における「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」「個別最適・協働的な学びの充実に向けた目標」及び「学びの保障に向けた目標」を念頭に置き、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA 第 2 期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの 1 人 1 台端末環境を引き続き維持する。

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用

教科の学習に限らず、調べ学習や家庭での自主学習、学習集団アセスメント（Q-U テスト）の実施・集計結果の即時反映等、積極的活用を進める。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

デジタルドリル等を活用し、児童生徒の習熟度にあわせた個別最適な学びを進める。児童生徒が、自分で調べたり、考えをまとめ発表・共有する際に積極的に 1 人 1 台端末を活用できる整備を行い、協働的な学びの充実を図る。

(3) 学びの保障

不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に対し、オンラインによる授業配信等実態に応じた支援を実施する。

(4) 健康観察・教育相談システムの活用に向けた調査研究

児童生徒の心身の状況把握や教育相談を行うため、端末を活用した「心の健康観察」の導入に向け、調査研究を行う。

方策の検討に当たっては、GIGA 第 1 期の課題について学校現場にヒアリングを行う。文部科学省リーディング DX スクールによる先進的取り組みや共同調達会議を通じて域内の他市町村の取り組みや課題を参考とする。